

顔の見える木材での快適空間づくり事業

事業実施主体

一般社団法人 木と住まい研究協会

実施体制・連携グループ

○一般社団法人木と住まい研究協会

進行管理、全体監修、構造計算上のアドバイスを担当。検討委員会には、有馬東大名誉教授、大橋東京都市大名誉教授にもご参加頂く予定。

○JAS認定工場、プレカット工場、ナイス(株)が連携し、国産JAS製材供給システムの開発を行う。本事業で連携するJAS工場は、品質・供給量・価格のバランスが製材事業者と協力する予定。実施エリアを限定し、国産JAS製材供給システムのプロトタイプとする。

【テーマ】A材を活用した国産JAS製材供給システムの開発

背景と目的

【背景】

・国産JAS製材の認知度はまだ低く、かつ外材からスギ製材への変更は、材積増加によるコストアップ等により国産JAS製材の普及にとっては、障害となる。

【目的】

・エリアを絞った川上～川下連携での体制で、最適な梁伏図・梁成の提案まで含めた国産JAS製材の供給システムの開発を行い、競争力のあるパッケージを作る。

対象とするA材丸太を原材料とする付加価値の高い木材製品

○ベイマツやRW集成材で設計されている物件を、単なるスギJAS製材に代替するだけでは、せん断力が不足し梁成を大きくする必要が出てくる。しかし、梁成を大きくして材積を増加すると価格競争力が低下する。

本事業ではスギのせん断力の低さを補うために、梁のかけ方や筋交いを変更する事で、せん断力を分散させ、材積増加を最小限に抑えることが可能性がある。

今回、供給体制が安定してる2地域(栃木県、徳島県)に絞り、JAS製材でのシミュレーション計算を行い、最適な梁伏図を提案する事で、コストパフォーマンスの優れた国産JAS製材の供給システムを開発する。



事業内容(利用拡大に向けた具体的な実施項目)

【事業内容】

①A材を活用した国産JAS構造材供給システムの開発

I 適材適所で利用できる国産JAS製材の選定

品質・供給量・価格のバランスが取れた産地2か所に絞り、今後他地域でも横展開できるようなモデルとなるシステムを構築する。

II 外材から国産JAS製材への代替提案へのシミュレーション

ベイマツやRW集成材からスギJAS製材に単純に置き換えるのではなく、梁成チェックをする事で材積増加が抑えられるかを検討。

III 国産JAS製材供給パッケージ商品の提案

最適な梁伏図を提案し、コストパフォーマンスの優れた国産JAS製材のパッケージを提案。

IV 普及啓発のためのコンテンツ作成

普及啓発のコンテンツとして、動画、チラシを作成。

②Web展示会を通した普及啓発

木材利用したWeb上の展示会を開催し、その中で①の国産JAS構造材供給システムについての普及も行う。今回は、プロユーザー向けの展示会とする。発信する情報はJASに関するものの他に、製材や木材関連メーカー、及び地域材情報のブースを設置し、木材に関する情報発信のプラットフォームとなる事を目指す。

スケジュール

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

二宮木材
打合せ

ウッド
ファースト
打合せ

梁成チェック

チラシ・動画作成

バーチャル
展示会
検討委員会

報告書
作成